

南京都少年野球連盟 特別規則と注意事項

1. 代表者会議で説明または決定された事項は、チーム全員に徹底させる。
2. 開会式には全員(9名以上)必ず出場させること(8名以下の場合は原則として棄権とみなす)
3. ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。ベンチには登録されている(代表者、監督、29番コーチ、28番コーチ、スコアラー)5名です。以外の方は認められません。選手、監督は同一のユニフォームを着用し、背番号を付けること。尚、背番号は選手0~27番、監督は30番とする。監督不在の時はコーチが監督代行をしてもかまいませんが、必ずユニフォームを着用し、背番号は28・29番とし、コート責任者に届け出ること。(登録済であること)
4. 球場内でのフリーバッティングは認めない。トスバッティングは相手チームのフィールドディング中に限り、外野のファールグラウンドで行うこと。
5. 次の試合を行うチームは、前の試合5回終了時に本部メンバー票2部を提出し、その際攻守の決定を行う。メンバー票用紙は、各コート本部席にあります。
6. 小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を強行する。
7. 試合開始予定時間前でも前の試合が早く終了した場合は、直ちに次の試合を開始する。
8. 試合開始予定時間前30分前になっても、球場に来ないチームは原則として棄権とみなす。(9名選手が揃っていない時など)
9. 選手の変更ならびに追加、背番号の移動は認めない。
10. 暗黒、降雨などにより試合を中止とした場合には、時間50分経過又は4回終了しておれば試合は成立として終了、それ以外は後日再試合とする。
11. 本大会の試合回数は7回とする。7回終了して勝敗の決しない時は最終出場メンバー9名による抽選で決める。尚、4回10点と5回以降7点差がある場合はコールドゲームを採用する。(3回20点差の場合も同じくコールドゲームとする)但し、決勝戦にはコールドゲームは採用しない
試合時間は1時間20分とし新しいイニングに入らない。
準々決勝戦より特別延長戦を「サドンデス」で行う。
 - A、準々決勝戦は7回もしくは1時間20分を経過し同点の時
 - B、準決勝戦及び決勝戦は、1時間20分以内に7回を終了し同点の時は、2イニングまで延長戦を行い、なお同点の時。(但し、勝敗が決した回で終了する)また、7回に満たず1時間20分を経過すれば以後入る新しいイニングを延長回とし、2イニングまで行き、なお同点の時。(但し、勝敗が決した回で終了する)
 - C、サドンデスは3回を最大延長戦としそれでも同点の場合は9名の最終回出場選手で抽選にて決定する。

特別延長戦「サドンデス」

ア. 一死満塁とし、継続打順で行う。

イ. 前回の最終打者を一塁走者とし、二・三塁走者は順次前の打者を走者として行う。

上記の方法で1イニングを勝敗が決するまで行き、得点の多いチームを勝者とする。

12. 大会使用球は京都軟式野球連盟公認のマルエスボール、学童の部はC号を使用する。
13. 塁間距離は、学童の部 23m、投手板前溝と本塁間の距離は、学童の部 16mとする。
14. 投手は投手板に触れて捕手からのサインを受けること。
15. 捕手は必ず公認マスク・ヘルメット・プロテクター・レガースを使用しなければならない。
16. 打者はヘルメットを着用し、打者席に入って速やかに攻撃姿勢をとること。
17. スリーボールのあと、主審のボールカウントの宣言を待たず打者が一塁に歩くようなことはしない。
18. 監督、主将がタイムを要求せず、みだりにベンチを出てはならない。タイムはプレイヤーの要求した時ではなく審判員が認めた時である。打者がタイムを要求する時期は、投手が投球姿勢の構えに入る前でなければならない。打者は投手が投球動作に入ったら打者席から出てはならない。
19. 守備側からのタイムで試合が停止された時は、その間、投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。
20. 次打者は必ず次打者席に入ること。投手でも必ず実行すること。(但し、素振りを禁止する)
21. 本塁打の場合、走者を迎えるためベンチから出て、三本塁間の走路上に出ることを禁ずる。
22. 抗議の出来る者は、監督、当該選手のうち一名とする。[但し、審判員の裁定が規則の適用を誤って下された疑いがあった時のみ 9・02(b)] 審判員に対して必要以上の抗議は二分以内として、それ以上、審判員の判定に従わない時は試合放棄と見なす。
23. どんな方法であろうと相手チームのプレイヤーに対して、悪口を言ったり暴言を吐くことを禁ずる。
24. 競技技術並びにマナー向上のために、試合の迅速化と少年らしい態度に心がけること。
25. 選手並びに応援団については、所属チームが一切その責を負うものとする。
26. その他、競技規則は全日本軟式野球連盟規則を適用する。
27. スパイクは連盟公認のゴム底(ポイントスパイク)のものを使用すること。
28. コーチーズボックスには一塁側、三塁側とも必ず攻撃が始まるまでに選手はヘルメットを着用の上、入ること。
29. 球審は時間内7回終了をめざし、打者のサインの確認の为一球ごとにバッターボックスを外す行為は試合の遅延になる為、注意をして下さい。
30. デッドボール(死球)は採用する。
31. スポーツ安全保険(スポーツ傷害保険)に必ず加入すること。

大会に対して不正を行ったチームに対しては次の措置を行う

(1) 出場資格に不正のあった場合

- a. 試合開始前あるいは試合中に発見された場合は相手チームに勝利を与える。
- b. 試合終了後発見された場合は次の相手に勝利を与える。
- c. 決勝戦終了後に発見された場合は準優勝者とする。

尚、出場資格に違反が生じた場合は、次の試合の終了までに(最終試合の場合は試合終了後一時間以内に)違反を証明する書類を添えて、大会本部へ異議申し立てをすること。

(2) 大会中トラブルが起きたり、不測の事故が起きた場合は大会事務局の決定に従わないチームは失格とする。

(3) 不正登録したり、試合の際に登録外の選手を出場させたチームは、失格になると共に、チームの代表者及び監督は一年間当連盟に登録することが出来ない。

グラウンド準備・整備協力をお願い

- (1) 審判割当表の第一試合及び第二試合の4チームから各一名は、第一試合の準備の為に1時間前に会場に集合して、お手伝いをお願いします。
- (2) 最終試合のチームと塁審チーム一名は試合終了後のグラウンド整備をお願いします。

南京都少年野球連盟の大会は、グラウンド特別規則（ボールデッドラインの取り扱い）

ボールデッドライン内での捕球であること。

ボールデッドラインを越えればボールデッドとなる。（危険防止の為、ボールデッドライン内で捕球後ボールデッドラインを越えれば捕球とみなさない）

球審は試合の前に塁審に下記の事項を説明し、協力をお願いする。

グラウンドルールを良く確認し、正確な判断を下すこと。

投手の軸足を良く見ること。

自由な足の踏み出す方向を良く見ること。

ハーフスイングの確認があれば球審に判定を知らせる。

プレートの穴を毎回埋めること。

テイク2ベースの徹底を計る。

試合開始時間の確認（試合時間1時間20分）

同一イニングの投手交代は出来る。

足を高く上げてスライディングすることは危険防止のため禁ずる。

捕手のブロックを禁止する。ベースの一角を空けること。

走者のいる時、球を持たない投手がプレート付近でサインを見るような動作をした場合は、かくし球としてボークを取る。

球審員は判定するにあたり当該審判員三名にて協議し、確認事項としてコート責任者にルールの確認をすることができる。